

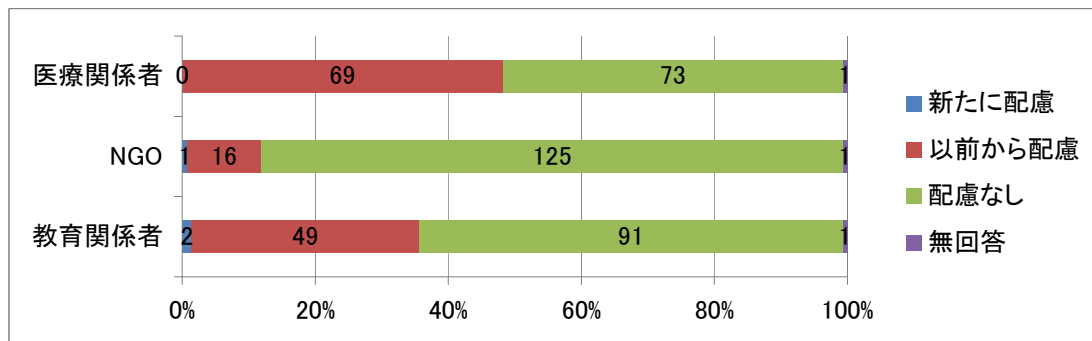
**性感染症サーベイランスの運営と結果活用に関するアンケート結果 H24年12月実施**  
**実施者** 「自然災害時を含めた感染症サーベイランスの強化・向上に関する研究班」(主任研究者:谷口清州)  
 分担研究「STIサーベイランス戦略」(分担研究者:中瀬克己)

回答率		配布数	回答数	回答率
全体		216	143	66.2%
区分別	都道府県	47	35	74.5%
	指定都市	19	16	84.2%
	中核市	41	36	87.8%
	保健政令市	8	6	75.0%
	特別区	23	18	78.3%
	地方衛生研究所	78	32	41.0%

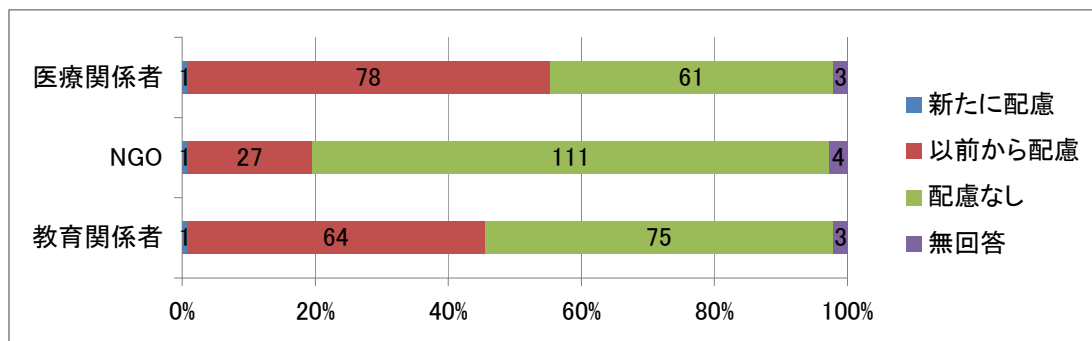
**各設問**

**＜発生動向調査の還元・活用について＞**

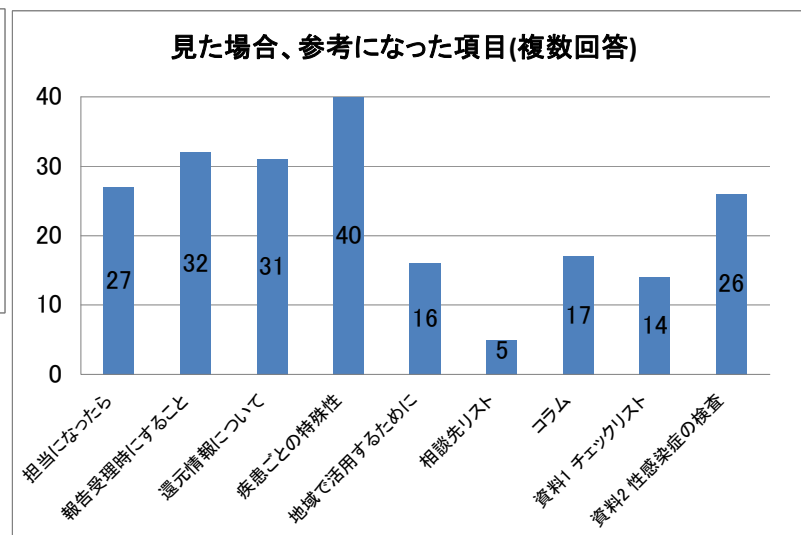
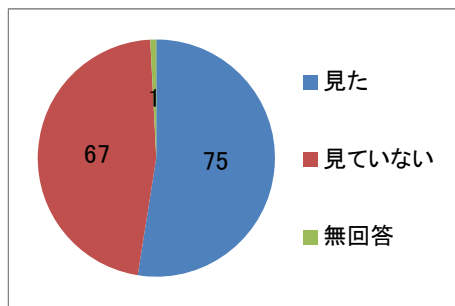
**1. 性感染症、B型肝炎等の発生動向を下記関係者に配慮して還元／広報していますか**



**2. エイズの発生動向を教育関係者,当事者支援団体を含むNPO等に配慮して還元／広報していますか**

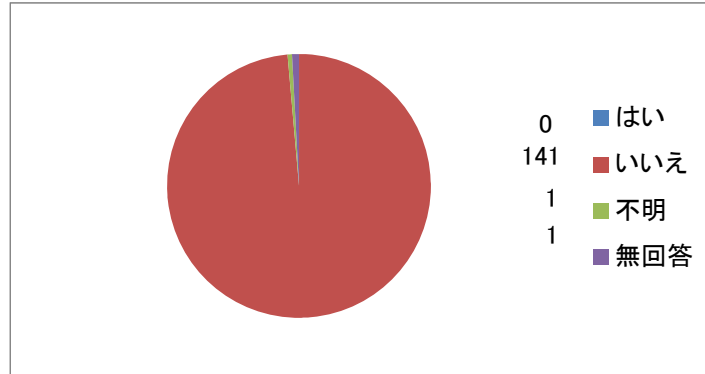


**3. 当研究班が作成した「性感染症発生動向調査活用ガイドライン」をご覧になりましたか**



## &lt;集団発生について&gt;

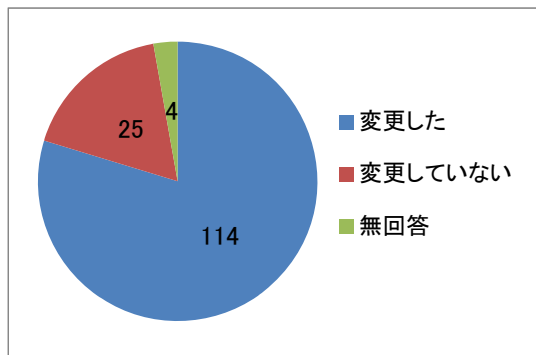
4. 平成24年に性行為による感染症（梅毒、B型肝炎、アメーバー赤痢やHIV感染症等）の集団発生及びその疑いを把握したことがありますか



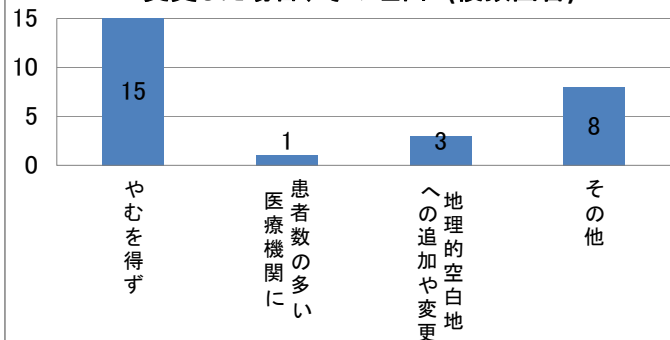
※設問5～7については該当なしのため、省略

## &lt;定点設定について&gt;

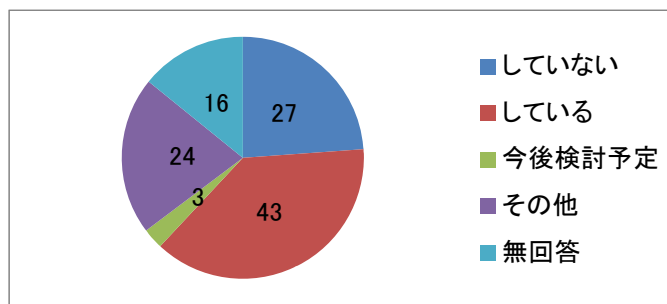
8. 性感染症の定点医療機関を2012年度に変更しましたか



## 変更した場合、その理由（複数回答）

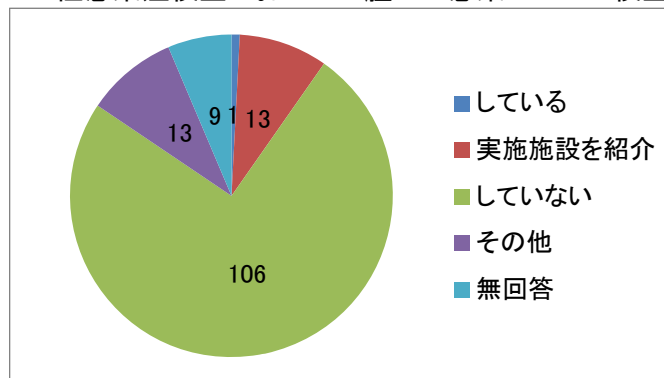


9. 選定の際に行政、学識経験者からの提案/推薦を行っていますか



## &lt;口腔を介しての感染について&gt;

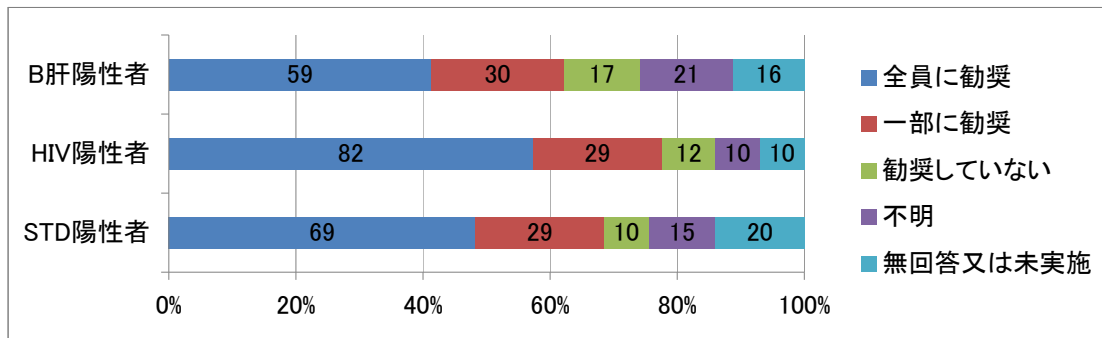
10. 保健所・特設検査での性感染症検査において口腔での感染について検査していますか



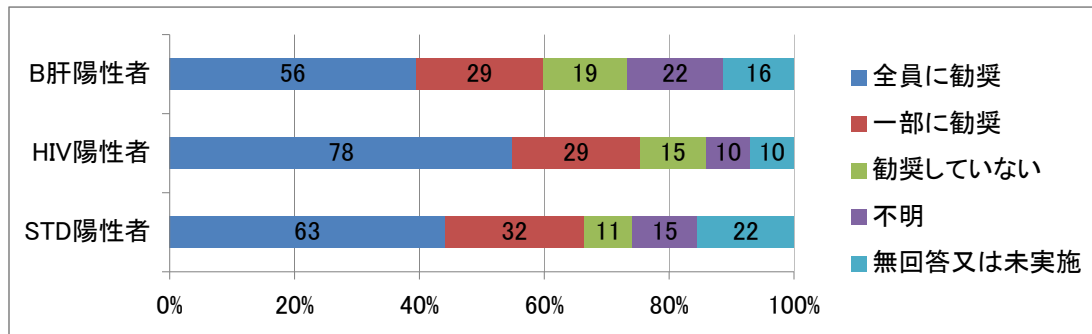
## &lt;パートナーへの情報提供／検診について&gt;

11. 保健所・特設検査での性感染症(STD)/HIV/B型肝炎検査で陽性となった受検者に、

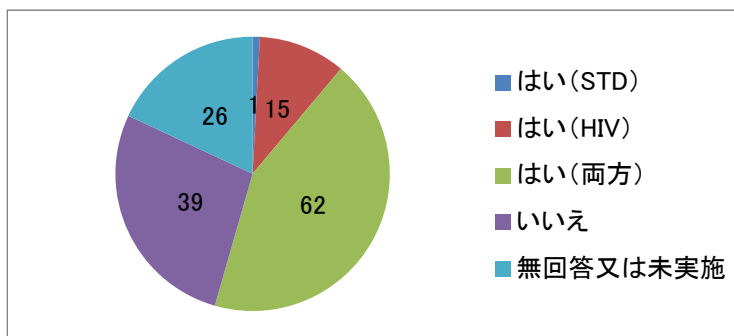
a) パートナーへの情報提供を依頼していますか



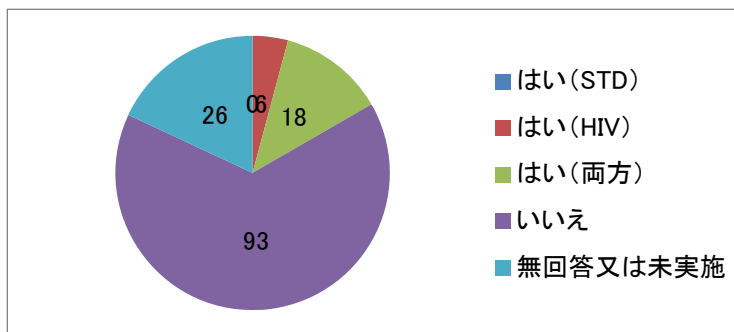
b) パートナーへの受検勧奨を依頼していますか



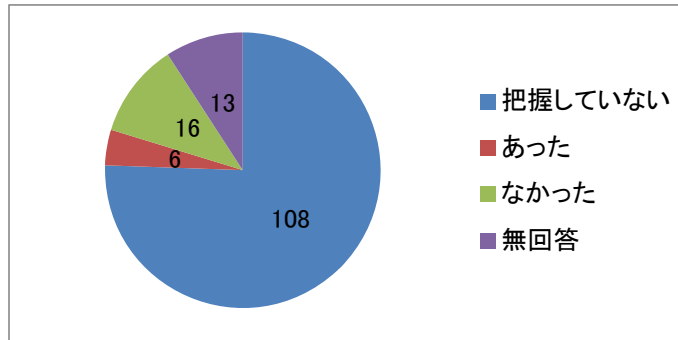
c) 勧奨の際に資料を用いていますか



d) 勧奨の手順や要領を定めていますか

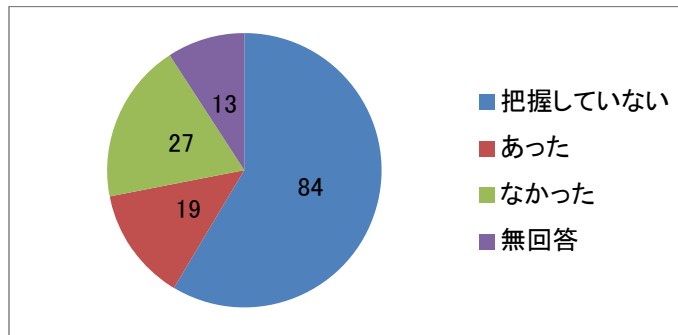


## 12. 勧奨の結果、パートナーの感染が分かった例がありましたか



「あった」の場合	
HIV	6施設 7件
その他STD	0施設 0件

## 13. パートナーの感染を動機として受検し、陽性であった例がありましたか



「あった」の場合	
HIV	6施設 6件
その他STD	8施設 11件

## 14. パートナーへの検査勧奨においてご意見があればご記載下さい

都道府県	A県	近年陽性報告がないため、実施状況不明。
	B県	受検勧奨は受検者に任せているので。
	C県	パートナーへの情報提供及び受検勧奨の必要性は、十分に認識している。しかし、全員一律に実施できるものではなく、受検者の状況に応じて実施するものと考えている。
	D県	パートナーの感染については、問診のところから聞き取る工夫が必要。パートナーへの検査を勧めても、その後の把握までは不可能である。(勧奨のみで終わる。)
指定都市	A市	匿名検査なので難しい。
	B市	ただちに、人生に影響を与えるような決断は下さないう、慎重に行うように話すことが大切。
	C市	医師の告知時にはパートナーへは情報提供を依頼はしているが受検勧奨については、ケースバイケースであり、カウンセラーが行うこともありえる。
中核市	A市	特にHIVは本人の受容状況をみて相談を勧める必要があり、陽性告知の最初の場面でパートナーへ告げるまで本人の受容ができていないとは限らないと考えている。ほかの性感染症については、当初では、抗体検査を実施しており本人の受診勧奨をするとともに陽性時には、パートナーと一緒に治療が必要であることを説明している。
	B市	陽性者のうち、パートナーが不特定多数の場合が多く検査に結びつかないことが多い。
	C市	・口頭での説明の他に、後で見かえてもらえるように、資料の提供について考えていきたい。 ・匿名で受検する方については、結果を追跡することは難しい。
	D市	パートナーへの情報提供、受検勧奨は行っているが、その結果把握まではできていない。
	E市	積極的に勧奨すべきであるが、性感染症検査を匿名で行っている関係上その後の把握やフォローは困難な現状がある。
	F市	匿名で検査を実施しているため、把握まで至っていない。
政令市	A市	HIV陽性者に対しては、本人を専門医療機関へつなぐことが第一。動揺を受け止め、具体的な行動を確認している。パートナーへのカミングアウトも「焦らず」と伝えている。
特別区	A区	説明はするが、その後は受検者の判断になっている。
	B区	匿名検査なので受診者の対応に頼るしかない点が困難。
地衛研	A研究所	特定のパートナーではなく、検査勧奨が難しい場合もある。
	B研究所	パートナーが不特定のケースもあり全員の勧奨は難しい。